

人権理事会 文化的権利に関する専門家が発言

2024/03/07

国連人権高等弁務官事務所

文化的権利に関する特別報告者が人権理事会で発言した。内容は以下のとおり。科学的進歩とその恩恵の共有に対する全ての人々の権利は数十年間国際文書で認められているが、人権として完全には実施されていない。科学が人権の枠内で行われれば、科学は変革的なプラスの効果だけを持つ可能性がある。多くの方法で科学に対する権利は損ねられている。例えば、学会や科学研究者に対する攻撃、公的資金投入の制限、科学の商品化の加速、世論操作や私的利益目的の誤報や偽情報による科学の道具化である。科学的専門家の科学的知識を損ねずに人々は多くの方法で科学に参加することができる。科学は科学的多様性を十分に考慮し、包括的であって排他的であってはならない。政府はあらゆる人々が科学に参加する様々な機会をもつよう確保し、科学を生み出す科学者と科学者が行った研究から利益を享受する資格のある一般の人々との間に厳格な区別を設けてはならない。